

【戦略プロジェクト評価(令和2年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	未来のもりおかを創る若者・しごと応援プロジェクト
期待する効果	やりがいのある仕事を創り、若者が引き付けられ暮らし続ける、活力のあるまちになる
重点取組期間	令和2～令和4年度
主管部名	商工労働部 ・ 農林部
戦略プロジェクト統括マネージャー	小笠原 康則 商工労働部長 ・ 長澤 秀則 農林部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
人口減少社会において、若者がどれだけ盛岡に残り、定住してもらえるのかという課題があり、この課題解決のためには、「やりがいのある仕事」、「安定した雇用形態」、「所得の向上」といった雇用の質を重視した取組が重要である。市内中小企業の多くが人材不足や後継者不足などが深刻化している。これらの課題の解決に向けては、新たな人材の育成や確保のほか、経営の持続的な成長につながる取組や経営力の強化などを促進する必要がある。同時に、生産年齢人口が減少する中において、働き方改革やAI、IoTの技術をはじめとしたSociety5.0など新しい社会の動きを捉え、産業の付加価値や生産性の継続的な向上につなげていく必要がある。	ものづくり人材や意欲ある農林業の担い手の育成、支援など、若者を中心とした盛岡で働く人を育てるとともに、戦略的な企業誘致や新産業等用地の整備、地元企業への支援などを通じて、盛岡の働く場を創出する。また、地元企業や農林業などの、効率性や生産性、付加価値を高め、地場産業の基盤の安定化と魅力向上により、地域経済の活性化と人口流出の抑制を図り、持続可能な活力あふれるまちづくりを推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
若者 地元企業・農林業	盛岡でやりがいのある仕事に就き、暮らし続ける 基盤を安定化させ、魅力を向上させる

目標指標の状況・評価(令和2年7月時点)

実績値の推移				実績の評価		今後の展開(評価時点～令和3年度) 評価を踏まえた今後の取組
指標	当初値(H29)	R4目標値	目指す方向	「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析	
指標① 盛岡公共職業安定所管内の高校生県内就職率	63.8	70.0	↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点	特に寄与している点の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 高校生インターンシップの参加企業・参加高校を増やし、多くの学生が地元企業を知るきっかけとする。 ☆2 地元で働き・生活することの魅力伝えるための方法をさらに検討する。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、求人等への影響が生じる可能性があり、動向を注視し、必要に応じて適切な施策を講じていく。
				<ul style="list-style-type: none"> ・企業に対し、求人票の早期提出を各機関が呼びかけるなどして、県内の求人情報を高校生が早期に知ることができるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークや県、市がそれぞれ地元企業を学生が知るための取り組みを行った。 ・毎年行っている高校生を対象としたインターンシップ事業が地元企業を知るきっかけとなったと考えられる。 ・高校生の就職面談会を開催するなどして、就職機会の提供を図った。 	
指標② 県内大学生県内就職内定率	43.6	45.0	↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点	特に寄与している点の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 県外大学等の学生のUターンを促進するための取組を行う。 ☆2 地元企業の働く場としての魅力向上を図る。 ☆3 大都市圏との待遇格差の解消に資するため地域経済を活性化させ、企業収益向上を目指すための取組を行う。 ☆4 若者の起業を支援するための取組を行う。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、求人等への影響が生じる可能性があり、動向を注視し、必要に応じて適切な施策を講じていく。
				<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べて県内就職の内定率は下がったものの、各種事業の実施により、県外企業の高い採用意欲の中において、下げ幅を食い止めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の採用力強化研修を行ったことにより、採用に結び付いている企業もある。 ・ジョブカフェいわて運営事業により、多くの学生等に対し、きめ細かな就職支援を行っている。 	
指標③ 青年就農者数(累計) ※新規就農者のうち45歳未満の者	96	160	↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点	特に寄与している点の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 個別具体の就農相談を継続し、農業改良普及センターなどの関係機関とも連携しながら、丁寧な対応と必要な情報提供を徹底する。 ☆2 JA・振興局などの関係機関と協力し、補助事業等各種制度の周知を徹底する。 ☆3 「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、関係する様々な主体と連携しながらアクションプランに取り組んでいく。また、各取組の実施に当たり、ターゲットを若者に設定するなど、若い世代の参画を意図した企画を実施する。 ☆4 事業計画に沿って、スマート農業導入促進事業、輸出支援事業、森のしごと見学会等に取り組む農林業の魅力発信に努める。
				<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な田園回帰の潮流により、農のある生活に新たな価値が見出されている。 ・農業次世代人材投資資金や親元就農給付金の交付が、新規就農を後押ししている。 ・直近3年間の新規就農者数の約半数が、農業法人・団体に職を得る「雇用就農」であり、法人等が新たな担い手を確保・育成する受け皿となっている。 ・「美食王国もりおか」ファンクラブ会員へメールマガジンでの継続的な情報発信を続けているほか、「畑のお手伝いプロジェクト」など農業を体験できる機会を創出した。 ・若い世代をメインターゲットに本市の食と農の魅力を発信するリーフレット「もりおか食の輪」を発行したほか「美食王国もりおか」ウェブサイト内で「私のてつがく」と題し、市内で活躍する農家の思いや考え方を紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震、記録的豪雨、新型コロナ等の自然・人的災害により、人々の生活基盤が脆弱化しており、人の暮らしのあり方が見直されている。 ・農業次世代人材投資資金や親元就農給付金は、農業所得が不安定な就農初期段階を支えている。 ・雇用就農を一定期間経過後、独立就農するケースがあることから、雇用就農が独立就農への助走期間と捉えられ、選択される傾向が現れ始めている。 ・「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に掲げるアクションプランに基づき、食と農の基盤強化、魅力発信などに係る事業を複数展開し、本市の食や農への興味、関心を高める機会を創出できたことによる。 	
指標④ 盛岡市内の働き方改革関連認定企業数	29	120	↗	「指標の目指す方向」に向けた問題点	特に寄与している点の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> ☆1 働き方改革に取り組むためのセミナーを開催し、企業の取組を支援する。 ☆2 中小零細企業の人材確保を支援し、働き方改革への取組が行える環境づくりを図る。
				<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に対する取組の必要性を企業が認識し、浸透し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランス推進事業を実施し、個別企業へのコンサルティングを行い、リーディング企業を育成することで、他の市内企業にワーク・ライフ・バランスに対する取組が広がったと考えられる。 ・働き方改革に取り組んだ企業を表彰するなどして、その取組の必要性をPRした。 	
				「指標の目指す方向」に向けた問題点	特に寄与している点の要因分析	
				<ul style="list-style-type: none"> ・中小零細企業では、取組をできない事業所もあると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中小零細企業では人員が不足していることが考えられる。 ・ICTを活用した働き方改革の取組方法が知られていない可能性がある。 	

